



タケノコメバル *Sebastes oblongus*

漁獲年月日：2008年5月1日

漁獲場所：男鹿市脇本地先 水深3m 小型定置網

漁獲者：秋田県漁協脇本地区 加藤邦夫

全長233mm, 体長196mm, 背鰭XIII+12, 臀鰭III+6, 胸鰭16, 鰓は19

北海道南部から九州にかけて分布。沿岸の岩礁域に生息する。仙台湾では「ベッコウズイ」、富山県では「ハチメ」と呼び、美味しい魚として知られているが、秋田県ではきわめて希である。

全体に黄褐色で、体側には不定形の大型褐色斑が広く分布し、小黑点も多数散在する。胸鰭基部には大型の黒色斑があり、腹鰭にも黒色斑が認められる。吻端から眼を通り鰓蓋上部に至る褐色の線がある。吻はやや尖る。

名前に付くタケノコの由来は、筍が出る春期に多く漁獲されるとか、この時期が旬で美味しいとか、体色が筍の皮に似るからだとか言われている。

全長40cm近くになり、12月から翌1月に仔魚を生む。各地で激減していることから、最近、香川県などで種苗生産し稚魚の放流が行われている。